占いサイトで情報流出　編

出演　タッ君　タ「

　　　テレビ　テ「

　　　　　健三君　健「

❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚❚

あるところにタッ君という男の子がおりました。

タッ君は中学生なのになぜかランドセルをしょっている、ちょっと変わった子です。

　（次へ）

タッ君は、占いが大好きです。毎朝テレビの占いコーナーを見るのが日課になっています。

テ「本日のアンラッキーは、名前が「た」で始まる男の子。事故にあったり、信じてる人から裏切られたりするかも？かなりブルーな気持ちになりそうですが、大丈夫、本日のお助けアイテムは「携帯電話」です。お助けアイテムで今日も一日をハッピーに・・・」

タ「あー今日の運勢はひどいなぁ。信じている人から裏切られるなんて最悪だし。何々お助けアイテムは、携帯電話？助かったぁ。最近買ってもらったばかりだし、今日は一日中手放さないようにしよう。」

タッ君はつい二週間前に携帯電話を買ってもらったばかりだったのです。テレビの占いは、よくなかったけど、携帯電話を持っていれば最悪の結果だけは避けられるときいて一安心。携帯電話を握りしめ、事故に合わないように周辺に気を配りながらタッ君にしては珍しく慎重な足取りで学校へ向かいます。

おや、あちらからやってきたのは友達の健三君のようですよ。

（次へ）

タ「おはよう健三君！」

健「おっすタッ君！どうしたの？えらくキョロキョロ落ち着かないように見えるけど」

　タッ君にしてみれば、気を配りながら歩いているのですが、周りの人からはただの落ち着かない人に見えたようです。タッ君は、健三君に今朝のテレビ占いの話をしました。

タ「今日のテレビの占いでアンラッキーになっちゃったんだよね。何かよくないことが起こるんじゃないかと心配で・・・」

健「あー占いね。なんでまた携帯握りしめてんの？」

タ「占いのお助けアイテムが携帯電話でぇ、これを持ってれば安心かなと思ってさ」

健「あーそれも占いなんだね。占い信じすぎ。どんだけ占い好きなんだよ。」

タ「好きっていうか・・・気になるっていうか・・・。」

健「そんなに気になるなら、占いなんか見ない方がよくね？いやぁむしろ占いサイトたくさん見て気に入ったのだけ信じることにした方がいいんじゃないかなぁ？」

タ「そんなにたくさんテレビ占い見れないよ」

健「何言ってんの。携帯使えば、山ほど見つかるでしょう」

タ「えーっつ携帯で占い見られるの！教えて教えて！ねぇねぇはやくぅ」

健「すっげえ食いつき。わかったわかった！教えるから落ち着けよ。携帯をインターネットに繋げて検索サイトで「占い」って検索すればいくらでも見つかるだろう。でもね、気を付けないと・・・」

（タッ君、健三君のセリフをさえぎって）

タ「わかってる。わかってる。携帯の通信料のことならこの前教えてもらったからバッチリ大丈夫。パケ放題に入ってるから大丈夫だよ。教えてくれてありがとねー」

健「おいおい、もっと注意することがあんだけど。おーいタッくーん。もうっ知らねぇぞ」

おやおや、タッ君は健三君の話を最後まで聞かずに行ってしまいましたよ。何事も起こ

らないとよいのですが。

（次へ）

タ「いいこと教えてもらっちゃった。もっと早く教えてくれればよかったのに。健三君結

構ケチだなぁ。さぁてと「占い」で検索だったな。「う・ら・な・い」っと」

タッ君はさっそく占いサイトを検索して探してみました。

タ「おーーーっつ本当にたくさんあるぞ。中にはお金のかかるサイトもあるけど、そんな

　　所は使いませんよっと。おっ『電話番号占い』これなんかよさそうだなぁ。『住所占い』

かあ。これも良さそうだよね。」

（次へ）

タッ君は、無料サイトの中からよさそうなのをいくつか見つけたようですが・・・。

タ「電場番号で今日の運勢がわかるなんて画期的だよね。さっそく、入力入力っと。０９

０１２３４５６７８っと。それで、「う・ら・な・う」っと。おーっ大吉！やっぱテレ

ビの占いでも携帯電話はラッキーアイテムだったし。今日の俺はついてるかも。」

タッ君は調子に乗って、「住所占い」「メールアドレス占い」、など無料占いサイトに手当た

り次第利用しました。

タ「うーん満足満足。こりゃ便利な世の中になったものだね。テレビの占いの結果が悪くてもこれからは気にする必要ないな。また明日もやーろうっと。」

あらあらタッ君、自分の個人情報をばらまいてしまいましたね。大変なことにならなけれ

ばよいのですが・・・

（次へ：ここで中断してどんなことが起こるのか考えるのもアリです。）

数日後、タッ君のメールアドレスには、大量の迷惑メールと不当請求メールが届きました。また、携帯には恐ろしげな声で、占いサイトの使用料を請求する電話がかかり続けました。困ったタッ君は、迷惑メールのブロックサービスや電話の着信拒否サービスを利用しましたが、次から次へ迷惑メールが送られてきたり、請求電話がかかってきたりしてすっかり疲れてしまいました。とうとうタッ君はそれまで使っていた携帯電話を解約する羽目になりましたとさ。おしまい。